

定 例 教 育 委 員 会【議 事 録】

日 時 令和6年11月8日(金)
9時30分～

場 所 岡谷市役所6階 605会議室
署名委員 小平教育委員、藤森教育委員

【次 第】

○ 開 会

○ 教育長報告

○ 議 題

- 1.不登校児童生徒の出席等の取り扱いに関する指針の改定について【資料 No.1】
(教育総務課)
2. いじめ・不登校の状況について(上半期)【資料 No.2】
(教育総務課)
3. 第7次岡谷市生涯学習推進計画(素案)について【資料 No.3】
(生涯学習課)
4. 第3次岡谷市スポーツ推進計画(素案)について【資料 No.4】
(スポーツ振興課)

○ 報 告

1. 旧渡辺家住宅の茅葺屋根改修工事の完了について【資料 No.5】
(生涯学習課)
2. VC長野トライデント相互連携協定の締結について【資料 No.6】
(スポーツ振興課)
3. SAGA2024 国スポ・全障スポ 視察について【資料 No.7】
(スポーツ振興課)

○ そ の 他

- ・行事等について(各課)
- ・その他

出席委員

教育長 宮坂 享、教育長職務代理者 太田 博久、教育委員 藤森 一俊、教育委員 小平 陽子、
教育委員 轟 美緒

事務局(説明員)

教育部長 白上 淳、教育担当参事 両角 秀孝、教育総務課主幹指導主事 濱 敦志、
生涯学習課長 白田 研一、スポーツ振興課長 小松 隆広、子ども教育相談センター長 林 秀昭
教育総務課学校教育主幹 味澤 勝一、教育総務課教育企画主幹 西山 塁、
子ども教育相談センター主幹 長谷川 智康、川岸学園整備室川岸学園整備主幹 新村 尚志、
生涯学習推進主幹 清水 浩史、スポーツ振興主幹 安仲 智恵子、
教育総務課主任 大島 俊輔

<会議録>

○開 会

宮坂教育長： それでは、ただいまより令和 6 年 11 月定例教育委員会を始めます。本日の署名委員は小平教育委員と藤森教育委員にお願いいたします。

○教育長報告

宮坂教育長： 初めに私から報告をします。

「季節が駆け足でやっと思に追いついた」という書き出しの新聞記事がありました。素敵な書き方だと思います。昨日は二十四節気でいうところの立冬であり、木枯らしが吹き始める時期になりました。一番待ち遠しかった秋があっという間に過ぎてしまうのは少し切なく感じます。

先日、岡谷小学校跡地の環境整備が行われ、私も参加してきました。ニセアカシアの木がどんどん大きくなっており、風が吹くと木々を揺らす風景が蘇りつつあります。

子どもたちの姿から報告します。各校で音楽会が行われております。今年度は川岸小学校と小井川小学校の音楽会に参加しました。まさに音を楽しむ、音を仲間と創り出す音楽会でした。音楽は学校教育活動の大きな柱の一つだと感じました。歌や合奏が素晴らしいのはもちろんですが、降壇するときにピアノ伴奏者に拍手する児童の姿や、楽器を片付ける時に譲り合いながら上手に片付けている姿が見られました。児童の豊かな成長を感じることができました。

川岸小学校6年生の合唱は山崎朋子さんが作詞作曲した「空は今」という歌でした。被爆地長崎への想いを表現した歌です。子どもたちの感情移入が素晴らしく、私も目頭が熱くなりました。

別日には6学年の交歓音楽会もありました。年々レベルが上がっており、子どもたちの表情もととても豊かでした。校歌を歌ってから各校の発表をする流れができており、とても良い音楽会でした。

続いて教頭会で長地小学校に行った時に、清掃をしている児童を見ることがありました。校内を磨き込む児童の姿と、それに対して「ありがとう」と声をかける先生の姿がありました。

また、熱心に授業を受けている1年生の姿もありました。給食後の5時間目で、眠くなったり騒いだりしてしまいがちですが、落ち着いて授業を受けていました。

9月9日に教育課程研究会があり、岡谷では3校で行われました。私は上の原小学校の社会科を見に行きました。江戸幕府が260年続いた理由について、タブレットを駆使しながら学んでいました。担任の先生は子どもと

宮坂教育長：

の距離感がとても良い先生でした。全面的に支える研究主任の姿、支援を要する児童の課題に取り組む姿、それを支える職員や友人の姿を見ることができ、とても嬉しかったです。

つづきまして、生涯学習課から報告いたします。

去る10月19日10時から、カルチャーセンターにおきまして「こども秋祭り」を開催しました。リーダーズ倶楽部のOB・OGの皆さん、東伊豆町との夏休み子ども交流事業に参加した子どもたちにも参加していただき、紙コップで「UFOキャッチャー」を作る工作コーナーや缶バッジづくりなどに多くの子どもたちが集まり、大変賑やかな祭りとなりました。

12月7日にはクリスマス会を開催する予定でございます。今回のように、多くの子どもたちの笑顔と笑い声があふれるイベントにしたいと考えております。

次に「子ども・若者育成支援のための街頭啓発」についてであります。教育委員の皆さんにも早朝よりご参加いただきまして、誠にありがとうございました。

「子ども・若者育成支援強調月間」中の活動の一環として実施いたしましたが、学校関係では、多くの生徒会の皆さんにも啓発活動にご協力いただいたほか、駅前では青少年の健全育成に日頃からご尽力いただいている関係機関の皆様とともに、あいさつをしながら啓発物品の配布を行いました。今後もこのような啓発活動等を通して、子どもたちの安全・安心を確保し、健全育成・非行防止に努めてまいりたいと考えております。

次に、岡谷図書館では、10月26日、27日にとしょかん子ども読書祭りを行いましたので、ご報告します。

今年で36回目を迎えました、「こども読書祭り」ですが、読み聞かせ等の、10団体45名のボランティアに、ご協力いただきまして、大型絵本や紙芝居の読み聞かせ、人形劇、パネルシアター、工作などを行いました。

また、今年は岡谷南高校の生徒さんが参加してくださり、諏訪の昔話の紙芝居を行っていただきました。両日合わせまして、295名の方に楽しんでいただきました。

轟委員さんにおかれましては、初日のオープニングで読み聞かせを行っていただき大変ありがとうございました。今後も多くの子どもたちに参加していただけるように工夫し開催してまいります。

最後にスポーツ振興課関係を報告させていただきます。

今年で30周年を迎える「やまびこ国際スケートセンター」の今シーズンの営業は、11月23日から来年2月16日まで、現在オープンに向けて製氷

宮坂教育長： 作業に取り掛かっているところであります。

オープン当日は、滑走料を終日無料としておりますので、親子をはじめ多くの皆様にご来場いただき、初滑りを楽しんいただければと思います。

また、元オリンピック選手による初心者向けスケート教室を開催するほか、リンク周辺では、キッチンカーの出店など、オープン日を賑やかにしてまいります。

さらに、岡谷商工会議所の協力を得ながら、30周年を記念して、平昌オリンピック団体パシュート金メダリストの菊池彩花さんの特別講演会も予定されており、夢を実現するための貴重なお話をいただけるとのことです。

今シーズンも多くの皆様がスケートセンターにご来場いただき、ウィタースポーツが盛り上がることを期待しているところであります。

私からは以上であります。

○議 題

1 不登校児童生徒の出席等の取り扱いに関する指針の改定について

＜令和6年8月の国からの通知を受けたことに伴う、岡谷市の「不登校児童生徒の成績評価及び出席等の取扱いに関する指針」の改定について、資料 No.1 に基づき事務局より説明＞

太田教育長職務代理者： 社会も大きく変化を続けており、個別最適な学びを追求するという方向性の中で、不登校に関する捉え方も時代によって変わっていると思います。

出席の取り扱いに関しては、学習支援ソフトを使用すれば、判断は困難ではないと思います。しかし成績評価については難しいところもあると思います。学習支援ソフトを使っても子どもによって理解度は異なると思います。先生方も難しいところだと思いますが、現状ではどのように成績評価をしているのでしょうか。

事務局（両角）： 従来はとにかく登校をしてほしいという考えがありましたが、現在は多様な学びの場で学ぶことができれば登校扱いにする考えで、長野県も独自にフリースクールの認証制度を今年度からスタートしています。場所を問わず学びの場であれば適切に評価をされるよう、多様な学びの場の創出が進んでいます。現在諏訪地域にもフリースクールがあり、利用している子どもも少なからずいます。どのような環境で学んでいるかを

事務局（両角）： 把握し、学校で学習内容について、家庭とも情報交換をしながら評価をしています。学習支援ソフトだけでなく、オンラインで学校の授業を受ける事例もあり多様な環境について取り組んでいます。

太田教育長職務代理者： 例えば小学生で不登校の子がICTを活用して学習していたとして、出席している扱いになり、学校側も評価ができたとして、その子が中学校に進むときに、今までの学習の経過は中学校にも伝えられるという認識でよろしいでしょうか。

事務局（両角）： 子どもの大切な情報は小学校から高校までつなぐ仕組みができていますので、そのような認識で問題ありません。

藤森教育委員： 長野県でもフリースクールの認証制度が始まったということもあり、不登校の子どもの学び方の一つとしてよく話題になります。お示しいただいた指針に「フリースクール等の民間施設における相談、指導が個々の児童生徒にとって適切かどうかは、校長が教育委員会と十分な連携を取って判断を行う」とありますが、具体的にはどのようなことを想定されているのか、もしくは既に実践されているのか教えてください。

事務局（長谷川）： 学校と教育委員会と一緒にフリースクールを訪問し、児童生徒の様子を見ています。

事務局（両角）： フリースクールから報告書も提出されますので、どのような環境でどのような学びをしているか状況は把握しています。

事務局（林）： フリースクールに通う子どもが岡谷市内でも増えてきました。それぞれのフリースクールと連携を取り、子どもの様子について学校とも共有をしています。

小平教育委員： 子どもによってさまざまな事情があると思います。今回のような指針もきめ細やかに作ること大切なことだと思います。フリースクールの認証制度についてとても期待をしており、画一的な教育の方法は、時代の変化と共に変わりつつあると思います。多様な学びを担保するためには、やはりフリースクールの存在は大切です。出席が絶対条件であったり、学校が指定した教材でないと認められないといった学び方から、今回の改定で多様な学びにつながる変化だと思います。教育委員としても、フリースクールの見学ができれば嬉しいです。

学び方は一つではありません。個々にあった学びの方法を認める指針を示してくださることはとてもありがたいです。

轟教育委員： 時代の変化を踏まえ、今回の改定はとても大切なものだと思います。指針の中に「必要な程度を超えて不登校期間が長期にわたることを助長しないように留意する」とあります。不登校には様々な理由があって、

轟教育委員： それらに対応できるような体制作りも大切ですが、集団生活で学べることもあると思います。フリースクール等でタイミングを見て登校を促すような声掛けはあるのでしょうか。

事務局（両角）： 今年から不登校支援コーディネーターを市教育委員会に配置しています。直接家庭に行って、その子どもとつながる体制ができています。やはり義務教育段階の子どもなので、友人関係や集団生活での学びが根底にあった上で、多様な学びという選択肢があると思っています。

宮坂教育長： 今回の改定は文部科学省からの通知を受けたことに伴い、市の指針も改定をするものです。不登校児童生徒の努力の成果の適切な評価を推進し、誰一人取り残されない学びの充実を推進することが、今回の法令改正の趣旨でありますので、本市においても大事にしていきたいと思います。

2 いじめ・不登校の状況について（上半期）

<令和5年度のいじめの認知件数、不登校児童生徒数の報告等について、事務局より No.2 に基づき説明>

太田教育長職務代理者： いじめに関しまして、以前から小さなものでも、可能な限り早く把握をするという努力を先生方はしてくださっており、それに伴い認知件数は多くなりますが、幸い岡谷市では重大な事案のケースはないということで非常にありがたく思っております。

今はインターネットが絡んだいじめがあります。ご報告いただいた人数の中にどの程度含まれているのでしょうか。

また、不登校児童生徒数が増えている内容の報告がありました。少子化が進みつつも、不登校児童生徒数が増えている理由について、変化は見られるのでしょうか。

事務局（長谷川）： 学校からの報告にはインターネットが関係したいじめも見受けられ、教育委員会でも状況を把握しております。

また、不登校児童生徒数につきましては、支援会議を学校で開いております。その中で感じることは、保護者はどんな理由があっても必ず子どもを学校に登校させる、といった考えではない方が増えてきている印象です。

事務局（林）： 不登校にいたる理由について、明確な変化を説明することは難しいです。国も県も多様な学びを推奨する中で、必ずしも登校をしなければならないという考えは少なくなっていると感じます。社会的に多様な

事務局（林）： 家庭とそれに合った学びを推進する流れもあって、フリースクール制度の利用者も増えています。

太田教育長職務代理者： 不登校になっている子どもも、何が理由で不登校になっているか説明することは難しいと思います。岡谷市には子ども教育相談支援員の先生がいてくださるので、子どもに寄り添った対応を今後も続けていただきたいと思います。

藤森教育委員： 資料2でお示しいただいた不登校児童生徒数ですが、こちらには学校へ登校していなくても出席の要件を満たしている児童生徒は含まれていないという認識でよろしいでしょうか。

事務局（長谷川）： その認識で問題ありません。

藤森教育委員： 様々な理由があって学校に行けない子どもが、フリースクールなどの制度を使って学びの機会を得て、将来的に社会で生きていくための学習をすることは大切です。そのような取り組みを充実させていただき、今後も続けていただきたいと思います。

轟教育委員： 私が子どもの時は、学校には絶対行かなければならないという考えがあり、子どもを育てる時も絶対に休ませたくないという考えでした。不登校児童生徒数が増えている要因の一つに、必ずしも学校に行かなければならないという考えが少なくなっている、とありました。不登校児童生徒の親御さんには、学校に行かなくても良いと考える方と、学校には行ってほしいけど難しい状況にある方など、様々なパターンがあると思います。説明を聞きながら、個々の連携が大切だと改めて感じました。

事務局（林）： 学校に行かなくても良いという考えの親御さんも、そこに至るまでにどのようなお気持ちがあったのか、実際に子ども教育相談支援員の先生が聞いた話を紹介します。最初に訪問した時は学校への登校は考えていないと言われていた家庭も、支援員が訪問を重ね、最終的に子どもが登校できるようになった時、親御さんも最初から学校に行かせないという選択をしたのではなく、子どもが行かなくなったことで親も同じような気持ちになってしまっていたようです。

一方で、子どもの性格等で登校は難しいと判断し、フリースクールを選択する家庭もあります。多様な学びについて教育委員会としても様々な対応が必要だと感じています。

太田教育長職務代理者： 小学校の不登校につきまして、学年によって不登校児童数が大きく異なることはあるのでしょうか。昔の言葉ですが、「読み書きそろばん」という言葉があります。社会に出て自立して生活をしていくために必要な知識があります。例えば低学年時に不登校になってしまうと、必要最

太田教育長職務代理者： 低限の知識を学ぶ機会も失ってしまう可能性を懸念しています。

事務局（林）： 昔は小学校の不登校児童は少なく、中学1年生で急激に不登校人数が増える「中一ギャップ」の傾向が見られました。中学校の不登校生徒に対応するために中間教室の設置等で対応をしてきましたが、現在は小学校低学年から不登校児童がいます。小学校から学びに参加できない子どもたちをどうするか、大きな課題と認識しています。不登校が深刻化しないように、家庭との連携を取り、効果的な施策を探っていかなければならないと思っています。

宮坂教育長： 子どもたちの知りたい、学びたいと思う気持ちを支援していくために、最終的には個々にどれだけつながっていけるかが大切です。一例ですが、中学校全欠席だった生徒も、通信高校で単位を取ることができたというお話を聞きました。やはり長い目で見る必要もあり、深刻になる前に連携をする体制が大切だと感じています。

3 第7次岡谷市生涯学習推進計画（素案）について

<令和6年度をもって第6次岡谷市生涯学習推進計画の期間が終了することに伴い、来年度から始まる第7次計画の素案について No.3 に基づき説明>

小平教育委員： 資料編に各種団体からの意見要望がまとまっていますが、本計画の完成版にもこの意見は掲載されるのでしょうか。また、この計画を市民の方が見る時はインターネットから見る形になるのでしょうか。

事務局（清水）： 意見につきまして、完成版にも掲載予定です。また、閲覧についてはインターネットで見ることができるようになります。

太田教育長職務代理者： 生涯学習は内容が膨大で、様々な内容を計画に含める必要があります。それらを網羅出来ている素案になっていると思います。

生涯学習の充実ということで、様々な講座を実施されており、今後も継続をしてほしいと思っています。地域との連携をしっかりと進めないと、地域コミュニティも保てなくなっていると思います。市が主体の生涯学習から、地域も学校も家庭も一緒になって、地域の生涯学習を作り上げていくことができれば嬉しいです。

事務局（白田）： やはり講師の確保も難しくなっている中で、岡谷に関する講座を市が開催し、それをきっかけに講師になってくれる方が増えるように取り組んでいます。これからも継続して取り組み、地域全体で生涯学習ができるように計画を推進していきたいと思っています。

轟教育委員： 生涯学習全体に係る計画ということで、非常に広い範囲の内容を網羅している計画で、素案の作成も大変だと思います。新たに追加された項

轟教育委員： 目を取り上げますと、子ども読書推進計画や、デジ図書信州の活用等も非常に大切な内容だと思います。

計画の2ページに基本目標の図説がありますが、とても重要な箇所なので、図以外にも文章も示した方がより分かりやすいかと思いました。

事務局（白田）： ありがとうございます。しっかりと基本目標が分かるように、表示の方法も再検討したいと思います。

轟教育委員： 計画の中で、基本的には注釈が付いており、言葉の意味も分かるようになっていますが、24ページの「岡谷学」「コレカラ岡谷」などの講座についても簡単な説明があれば、その講座を知らない人でも疑問なく読める文章になると思いました。

藤森教育委員： 子どもの頃は学校教育の充実が大切ですが、大人になってからは自分の力でより豊かな生活をしていくためにはどうすればよいかが「個人と社会のウェルビーイング」につながり、生涯学習の目指すところはそこにあると感じています。ただ、1ページにウェルビーイングについても触れられていますが、本来この言葉はもう少し温かいイメージの言葉であり、文章にしてしまうと少し硬いイメージになってしまうので、イラスト等の別の表現も検討いただければありがたいです。

また、この計画は教育委員会が作成する計画なので、基本的には市民の皆さんに対して、生涯学習の機会を行政から提供していく内容になると思います。岡谷市の生涯学習はこんなに充実していて、このような講座があるということをもっとPRしていただき、新しいつながりができれば、新たな講師も確保できるかもしれません。

事務局（白田）： 生涯学習課で行っている活動につきましてはSNS等や、市の公式LINE、ホームページも活用して一通りのPRはしていますが、それ以上に大切なPR方法は口コミになると思っています。多くの方の目に触れるように、もう一工夫ほしいと、担当としても感じているので、これからもPR方法については検討を続けていきたいと思っています。

藤森教育委員： 人生100年時代という言葉も素案に含まれていますが、人生の中で義務教育を受ける期間は9年間で、進学等をして学習は二十歳前後までの方が多いと思います。年齢を重ねてから、あの時もっと勉強しておけば良かったと思うことがあります。また、若い時に何らかの事情があって、学校に行けなかった人もいると思います。そんな方々のためにも、幅広い世代に対して情報発信をしていただきたいと思います。

小平教育委員： 33ページ下部に「イルフ童画館の活動が子ども世帯や一般市民に溶け込めず残念」とあります。イルフ童画館の運営が教育委員会から離れて

小平教育委員： いることも原因の一つかもしれません。

人材育成について、今回の素案で謳われている個所がありますが、講座等を通じて参加者には岡谷について学んでもらって、講師になり得る方々を増やしていくことは素晴らしいことだと思います。そういった考えを子どもたちとも連携できれば良いと思っています。例えば子どもたちが岡谷について学んだ内容を市民に伝えることができるような場を設けたり、美術考古館等の情報発信を子どもたちにやってもらったり、それらをフリースクールと連携することもできるかもしれません。生涯学習課の講座を、大人だけでなく子どもも参加できるような内容にするのも面白いと思いました。

施策に「青少年活動の推進」があり、素晴らしい活動だと思います。中学校の部活動が大変な時期に入っていますが、文化系の部活動はなかなか手が行き届かない状況である学校もあると思います。高校の美術部の指導に行った際に、先生自身のご専門でない部活を担当されることもあるそうで、もっと専門的な有意義な時間にしたいと要望されていることを知りましたので、地域で文化活動をしているグループと学校がつながることができれば、人材育成も可能かと思いました。

事務局（白田）： 今のお話を聞いて、文化系の活動についても少し検討をしたいと思いました。「青少年活動の推進」にある、わんぱくアドベンチャーも野外活動を中心にリーダーシップを養う活動ですが、例えば美術考古館やイルフ童画館とも連携して新しい事業ができるかもしれません。検討しますので今後ともご意見いただければ幸いです。

4 第3次岡谷市スポーツ推進計画（素案）について

<令和6年度をもって第2次岡谷市生涯学習推進計画の期間が終了することに伴い、来年度から始まる第7次計画の素案について No.4 に基づき説明>

小平教育委員： トライアスロンと岡谷市がどのように関わり合うのかを教えてください。また、プロバレーボールチームとの地域連携協定についても詳細をお願いします。湖畔のジョギングロード、サイクリングロードについて、景観も素晴らしく岡谷の財産と感じていますが、本計画でどのように生かされているのかについても教えてください。質問ばかりですみませんがよろしくお願いします。

事務局（安仲）： トライアスロンにつきまして、諏訪市、下諏訪町と連携をしています。それぞれの市町で実行委員会を立ち上げ協力して進めています。競技面ですと、岡谷市エリアは「ラン（長距離走）」となっています。

次にVC長野トライデントとの連携協定ですが、ホームゲームを市民
事務局（安仲）： 総合体育館で年に数回行ってもらっております。市民総合体育館を練習拠点の一つにしたいとお話もある中で、連携強化を図るために相互連携協定の締結をしました。ホームゲームを岡谷市で行ったり、子どもたちへのバレーボール指導をしてもらうことで、市全体でバレーボール競技を盛り上げていく内容になっています。

次にジョギングロード、サイクリングロードですが、完成して諏訪湖が一周できるようになったことから、利用される方をお見受けします。特色ある設備ですので、情報発信にもつなげていきたいといった内容になっています。

小平教育委員： ジョギングロードやサイクリングロードを利用しながら、八ヶ岳も見ることができる素晴らしい設備だと思います。大きく取り上げていただいているので良い資料だと思います。

スポーツが得意ではない人でも、プロスポーツを応援することは楽しめる活動になると思います。プロスポーツチームとの契約によってどのようなメリットがあるか、研究を進めると表現されていましたが、これから先どうなるか詳細は未定でしょうか。

事務局（安仲）： ホームゲームの開催の他に、日々の練習を市民の皆さんに見てもらったりすることは歓迎してくださっています。プロの練習風景を見ることも貴重な体験になると思っています。

それからVC長野トライデントの皆さんに、市の主催イベントへの参加協力や、バレーボール教室での指導などで協力してもらうことを予定しています。

事務局（小松）： VC長野トライデントのホームページには、岡谷市と相互連携協定を結んだことを記念し、市民に対して試合の無料招待券をお渡しする表記もあります。先日岡谷市で行われた試合では40組80名の岡谷市民が招待券によって「見るスポーツ」を楽しみました。そういった連携も既に始まっています。

藤森教育委員： 基本目標にもありますが、国民スポーツ大会が岡谷市でも開催されるということで、レベルの高い大会を岡谷でできることはとても大きなことだと思います。4か年計画の最終年度の2028年が、国スポの開催年ということで、基本目標の集大成にもなると思います。目標のタイトルが、大会の推進となっています。本大会へ向けてどのような準備をしていくかは大切なので、基本目標に含めてもらって良いと思いますが、推進をしていって最終的に岡谷市として受け入れをした競技が、どのような形

藤森教育委員： で成功できるかも目標に含めていただければより良いと思いました。達成目標に満足度が80%という目標もありますが、「大会終了後も大会開催の成果を本市の財産として未来へ継承します」という表記もありますのでどのような財産を想定されているか、現時点で具体的に想定されているか教えてください。最終的に大会を成功と呼ぶためのイメージがあれば教えてください。

事務局（小松）： 具体的なものは難しいですが、よく「レガシー」という言葉が使われます。国民スポーツ大会を岡谷市で開催し、とても盛り上がったということの後世に伝えていき、今以上にスポーツが盛んになってほしいというイメージを持っており、そのようなレガシーを作っていきたいと思っています。

藤森教育委員： 成功の定義も難しいですが、最終的に良い形で2028年に開催できることが大切だと思います。国民スポーツ大会を開催するなかで、岡谷市は何を目指すのかについて触れる部分があっても良いと思いました。

太田教育長職務代理者： 「スポーツで笑顔あふれる元気なまち」を目指すために、行政が特定のスポーツに肩入れすることは難しいと思いますが、それでも何か特徴を持たせたプランにする必要はあると思います。国民スポーツ大会で、岡谷市が卓球を受け入れられたのは、岡谷には卓球が盛んである土壤があるということだと思いますので、そこを強調するような文言を思い切って入れていただくことも検討していただきたいです。

VC長野トライデントとの相互連携協定も、市内にバレーが強い学校があり、そういった歴史があるからこそ、締結ができたと思います。この協定を機に、「バレーボールのまち岡谷」とPRしてもいいのではないかと個人的には思います。特定のスポーツだけを強調するのは行政としては良くないのかもしれませんが、岡谷のスポーツといえばこれ、というイメージができればまちづくりの方向性も定めやすいと思います。

次に、部活動の地域移行についても触れられており、ありがたいと思いました。社会体育と部活動はつながりがとても強いと思いますし、地域移行を進めるうえで、連携は必要になってくると思います。社会体育活動の充実の欄に、地域移行に向けた内容であることも含めて良いと思いました。

部活動の地域移行について、私が運動していたこともあり運動部のことばかりイメージしてしまいましたが、文化系の部活動についても生涯学習の計画にも含めていただいた方が良いのかと思いました。前の議題の話ですみません。

太田教育長職務代理者：

次に、スポーツ施設の整備充実関連で、湖畔公園を夜に利用されている方を見かけます。ジョギングロードを中心に、公園内で薄暗くなつてからキャッチボールをしている方もいます。例えば街灯が切れていたりすると、それは教育委員会の担当ではないかもしれませんが、スポーツ振興とも関わってくる場所なので、市役所の中で連携をしてもらい、使いやすい施設や設備にしてほしいと思います。

事務局（小松）：

国民スポーツ大会の関係ですと、岡谷市の卓球協会所属の選手はともよい成績を残しています。他にもアイスホッケーは設備がないとできない競技であり、岡谷はアイスホッケーができる施設があります。表記の方法についても改めて検討したいと思います。

社会体育の充実と、部活動の地域移行につきましては、教育総務課と連携しながら進めていますが、子どもたちにとって良い形になるように体制を整えていきたいと思っております。

スポーツ設備の充実につきましては、広場はどなたが使っていただいても良いですし、街灯等につきましても他課と連携しながら対応をしたいと思っています。

轟教育委員：

バレーボールや卓球のお話がありましたが、それをきっかけに岡谷の知名度が上がったり、人が来てくれるようになれば良いと思います。サイクリングロード、ジョギングロードにつきましては、実際に利用したこともあります。とてもきれいに整備されていて走りやすくなっているので、今回のスポーツ推進計画でなくても宣伝できる設備だと思います。

宮坂教育長：

ありがとうございました。今回の定例教育委員会では、生涯学習推進計画の素案、及び岡谷市スポーツ推進計画の素案についてご協議いただきました。今回委員さんからいただいたご意見を踏まえ、計画（案）を作成してまいります。今後も委員の皆様からご意見を賜りたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○報 告

1 旧渡辺家住宅の茅葺屋根改修工事の完了について

＜令和6年10月28日竣工の、旧渡辺家住宅の茅葺屋根改修工事について資料No.5に基づき事務局より説明＞

2 VC長野トライデント相互連携協定の締結について

＜岡谷市とプロバレーボールチームのVC長野トライデントの相互連携協定の締結について、資料No.6に基づき事務局より説明＞

3 SAGA2024 国スポ・全障スポ 視察について

<令和6年10月に佐賀県で開催された国民スポーツ大会の視察について資料No.7に基づき事務局より説明>

○その他

・行事等について（各課）

<各課より行事予定について説明>

- 宮坂教育長： ありがとうございます。
 それでは事務局より次回開催予定についてお願いいたします。
- 事務局（両角）： 次回の定例教育委員会は
 12月13日（金）9時30分から605会議室を予定しています。
 よろしくお願いいたします。
- 宮坂教育長： ありがとうございました。
 以上で定例教育委員会を終了いたします。

12時10分 終了

岡谷市教育委員会会議規則第20条により署名する。

令和 6 年 12 月 13 日

教 育 長 宮坂 享

署 名 委 員 藤 森 一 俊

署 名 委 員 小 平 陽 子

調 製 職 員 白 上 淳